大人のための知的好奇心マガジン
ACT4
2019
FEBRUARY
MARCH
アクト・フォー
88
ザ・ブルートレインと野生動物の楽園へ
GLITTERING
SOUTH AFRICA
南アフリカのきらめき
Jewelry The Body Transformed
THE MET ニューヨーク メトロポリタン美術館

TOPICS 04

フランス人間国宝を招いて地元作家と
コラボレーションする芸術祭
「ワザノワ会議」が有田焼で知られる
佐賀県の有田で開催され、現地を訪れた。
有田は想像していたよりも若々しく
クリエイティブな町で、純度の高い
芸術性が町に溢れていた。

text & photograph by Hiroyuki Nagatake

芸術祭「ワザノワ会議」

有田とフランス人間国宝

左上:松尾佳昭町長の挨拶、中央上:除幕式の様子、中央下:左から扇子作家のシルヴァン・グエン氏と創作絵師の葉仙(かせん)氏、他:会場風景

有田は、江戸時代から続く古い町並みが綺麗に残っており、指定文化財に登録されている建物が数多く、伝統的なイメージが強い。同時に若いクリエイターも多く、芸術的に感度が高く、前衛的で個性的な半面もある。古い伝統と革新を併せ持っているのは京都にも似ているが、今回有田を訪れて感じたのは、その純度が圧倒的に高いという事だ。第一線で活躍している芸術家の割合が、全国的に一〇〇万人に一人程度だと仮定すれば、有田は極端かもしれないが、その一万倍ぐらいの差を感じた。町に余計なものは無く、伝統に甘んじている様子もなく、伝統と革新に対する姿勢は極めてレベルが高い。そして、今まさに育まれていて、生き生きとしていて、ワクワクさせられるのだ。

今回の有田での芸術祭「ワザノワ会議」では、以前にも弊誌で紹介したフランス人間国宝で扇子作家のシルヴァン・グエン氏と、建築家のリナ・ゴットメ氏が来日し、柱雲寺での日仏共演による展覧会を中心に、地域の子どもたちや学生とのワークショップを始め、若手陶芸作家の庄村久喜氏や畑石修嗣(しゅうじ)氏らとのトークイベントが行われた。若い松尾佳昭町長も元気があって威勢が良い。そして、ワークショップに来ている子ども達は手先が器用で目がキラキラしていた。この先の未来が本当に楽しみである。若手の人気作家は多忙を極めているだろうが、これからも素晴らしい作品を作り続けて欲しい。

ワークショップの様子

芸術祭
「ワザノワ会議」

会期:2018年11月18日~25日(終了)
会場:柱雲寺(メイン会場)
佐賀県西松浦郡有田町幸平2-3-1

 取材協力:有田観光協会